

**Beyond Limits. Unlock Our Potential.  
To the Next Stage.**

**第2期スタートアップ・エコシステム拠点形成計画  
(新規拠点都市用)**

**おきなわスタートアップ・エコシステム・コンソーシアム**



# I. 全体ビジョンについて

## 1. スタートアップ・エコシステム形成の目標・KPI

### (1) 応募の背景

#### <沖縄県における地域課題と応募目的>

小規模な 県内マーケット	島しょ県であることから <b>県内市場のみをターゲットとする事業者が多く</b> 、目指すビジネス規模が小さい。
低い生産性	<b>低賃金であることに支えられた企業が一定数存在し</b> 、域外に出て行く競争力に乏しい状況である。
成長した企業が 生まれていない	他都道府県と比べても、 <b>県内市場における新たなプレイヤーの台頭が少ない</b> 。

**【応募目的】：積極的なSU誘致により、沖縄がスタートアップ創出・成長の「場」となることで、グロースするSUが集まるエコシステムの構築を目指す。**  
✓ 短期視点：シリーズA以降の資金調達不足の改善（資金出し手確保）  
✓ 中長期視点：SU創出の頭打ち課題の改善（域内改善・域外取込）

#### ■参考：都市別のスタートアップ数（2025年1月31日時点）

- スタートアップ数は相対的に多いが、シリーズA以降への成長が伸び悩み
- 有望SUの創出とシリーズA以降の資金の出し手、伴走支援が課題

	創業	シード	シリーズA	シリーズB	シリーズC	D以降	A以降率
東京	9,676	2,282	1,152	683	368	1,637	24%
大阪	1,074	151	69	35	14	227	22%
愛知	503	77	31	10	8	109	21%
福岡	427	95	37	17	15	60	20%
北海道	245	54	12	7	7	42	19%
宮城	144	26	12	5	6	12	17%
新潟	101	14	8	3	1	16	20%
沖縄	146	33	16	6	0	9	15%

### (2) エコシステムの現在地と5年後の目指す姿

#### <5年後の目指すべき姿>

##### ①世界のエコシステムとつながり相互に発展する地域

- ヒト・モノ・資金・情報が集まり、国内外との連携を深め、世界のエコシステム発展にも貢献する地域を創出する。

##### ②チャレンジ文化が根付いた地域の形成

- 先進領域への挑戦や事業成長を支援し、挑戦者を応援する文化を醸成することにより、スタートアップ創出の基盤を形成する。

##### ③沖縄の持続的発展に寄与するエコシステムの形成

- オープンイノベーションや規制緩和により、重点産業分野におけるイノベーションを創出し、持続的に地域が発展している。

#### <KPI>

	現在地	中間目標	最終目標
スタートアップの資金調達額 (2025年～2029年累計)	73.7億円	200億円	400億円
スタートアップ数	138社	200社	250社
評価額100億円以上の スタートアップ創出数	1社	6社	10社

## 1. スタートアップ・エコシステム形成の目標・KPI

### (3) 世界に発信できるセールスポイント

#### セールスポイント

沖縄から日本とアジア・世界を繋ぐ「万国津梁」として、グローバルイノベーションを起こす“未来型ブルーエコミー拠点”

沖縄県の強み

#### ① グローバルとの連携ポテンシャル

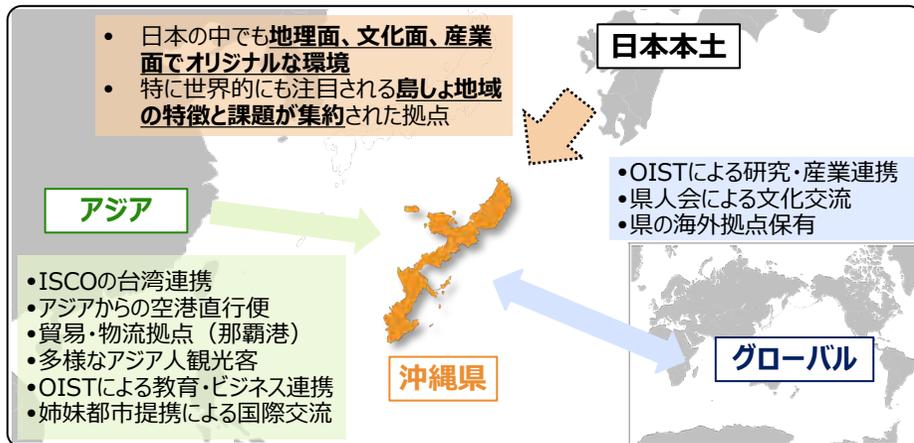
アジアのゲート機能（アジアからの空港直行便等）や海外との親和性（歴史的・文化的）を有し、世界有数の研究機関OISTやISCO、県人会の海外ネットワークにより海外からのリソース誘因が可能なポテンシャルを保有

#### ② 先進事例となりうる成長分野

島しょ地域の特性により閉じられた環境で実証・実験が行いやすく、ブルーエコミーの視点では日本また世界でも特徴的かつ先進事例となりうる成長分野が多く存在（※対象成長分野は下部の重点産業分野として記載）

#### ③ プラットフォーム・クラスターの存在

産学官金で構成するおきなわスタートアップ・エコシステム・コンソーシアムの存在や国家戦略特区、情報通信産業特別地区や経済金融活性化特別地区などの特例制度を保有



#### “未来型ブルーエコミー拠点（沖縄版ブルーエコミー）”

未来型ブルーエコミー拠点は、一般的なブルーエコミーと異なり、島しょ地域の特徴を活かした沖縄県独自の経済モデルを目指していく。

一般的なブルーエコミー 海洋資源を持続可能に活用しながら、経済成長と環境保護の両立を目指す経済モデル

#### 未来型ブルーエコミー拠点

#### 「海洋経済」に加え、「島しょ地域における優位性・課題解決」を目指すオリジナルモデル

<島しょ地域の特徴を活かした取組や方向性例>

- ✓ 島の閉じた経済圏の活性化、産業構造の偏重/限定的な領域の特化、企業のコングロマリット化/共助体制構築、島しょモビリティ、海+陸の自然保護、災害時のライフライン確保 等

#### 沖縄県で経済的インパクトが実現できる重点産業分野

#### 観光



次世代観光体験の創出と持続可能な観光地の形成

#### ヘルスケア



持続可能性のある文化と技術が育むウェルネス拠点化

#### エネルギー



災害時の孤立化にも対応できる持続性・自給性のあるライフライン

#### サーキュラーエコミー



島の限られた資源で豊かな生活を持続する資源循環技術

# II. 地方自治体の取組

## 1. 首長の方針



沖縄県知事 玉城 デニー

### 沖縄をアジア有数のスタートアップハブへ

沖縄からスタートアップが生まれ、成長していくことで、沖縄の優位性や潜在力を生かした新たな産業が創出され、経済の活性化に繋がるものと考えております。

コンソーシアムが一体となり、未来の沖縄の産業を牽引するスタートアップを数多く輩出できるよう、取り組んでまいります。



那覇市長 知念 寛

### 未来を拓く那覇のスタートアップ

ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHAとして、未来を拓く多様なイノベーション創出を目指します。

コンソーシアムに加え多様なステークホルダーと緊密に連携しながら、新たな価値創造を図りつつ、さらなるスタートアップ創出に向けた機運醸成に取り組んでまいります。



沖縄市長 花城 大輔

### イノベーションを加速させ挑戦者を応援するまち沖縄市

沖縄市は中心市街地商店街にて、創業・起業支援を実施しており、国内外からの来訪者が交じり合い、多様性のあるコミュニティが形成されています。

チャレンジを応援する沖縄市から、グローバルに活躍し社会的インパクトを生む企業・人材を創出すべく、スタートアップ支援強化に取り組んでまいります。

## 2. 総合計画におけるスタートアップ施策の位置づけとKPI・KGI

### 沖縄県 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）

#### 基本施策

#### 3 希望と活力にあふれる豊かな島を目指して

#### (6) 沖縄の優位性や潜在力を生かした新たな産業の創出

自律的にスタートアップやベンチャー企業等が生まれ成長する、[スタートアップ・エコシステムの構築](#)や既存産業と新たなファクターとの有機的連携等による相乗効果の創出及び発揮を通じて、本県の優位性や潜在力を生かし、持続可能な発展につながる新たな産業の創出を目指します。

#### 主要指標・成果指標

主要指標	スタートアップ企業創出数（累計） 100社
成果指標	起業家育成数（累計）
	スタートアップの資金調達額（累計）
	スタートアップが社会提供したソリューション・プロダクト件数

### 那覇市 第5次那覇市総合計画

**基本構想** ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

**基本計画** 様々な産業が集い、育ち・ひろがるまちづくり

施策33 商工業が発展するまちをつくる

#### 5. 創業・就職の相談充実

「なはし就職・創業なんでも相談センター」と「スタートアップサロン（カフェ）」を併設することにより、相談者や一般市民が訪れ、気軽に相談ができる環境を整え、就労・創業に関する支援を行います。

### 沖縄市 第5次沖縄市総合計画

**基本構想 都市像4** 人と産業の成長を支え発展し続けるまち

**基本方向3** 魅力的なビジネス環境をつくる

施策01 雇用の安定と創業支援の充実を図る

#### 2 創業支援とICT人材の育成

地域金融機関や沖縄商工会議所など関係機関と連携し、創業者へのワンストップ相談や出店に関するマッチング支援など、創業者等の支援に取り組む。

## II. 地方自治体の取組

### 3. スタートアップ支援部署の体制

沖縄県			
商工労働部産業政策課	7名	商工労働部企業立地推進課	4名
商工労働部ITイノベーション推進課	7名	企画部科学技術振興課	13名
商工労働部ものづくり振興課	6名		計37名

那覇市	
経済観光部商工農水課	10名

沖縄市	
経済文化部企業誘致課	2名

### 4. スタートアップ支援事業にかかる予算

#### (1) 総予算額 & (2) 主な支援事業と支援実績

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
沖縄県	1,236,614千円	1,196,595千円	1,266,087千円
那覇市	33,562千円	38,955千円	48,616千円
沖縄市	20,000千円	19,994千円	20,000千円

#### 那覇市

##### なはし創業・就職サポートセンター



- 創業相談窓口を設置し、専門相談員による創業支援を行うだけでなく、新たな创业者の掘り起こしへとつなげるセミナー・イベント等を実施。
- 開設から令和6年12月までの約8年間で79名の方が創業。

#### 沖縄市

##### Lagoon KOZA



##### 産業集積推進業務

- 創業ワンストップ相談窓口設置
- 創業スクールの開催
- 創業者等の事例の情報発信
- 創業・起業・スタートアップに関するイベントの開催
- スタートアップコミュニティ運営（関係機関連携）

#### 沖縄県

##### Startup Lab Lagoon NAHA



創業から成長段階にあるスタートアップに対し一貫したサポートを提供

##### 起業家の育成

- 創業相談窓口
- 起業支援金の支給
- アクセラレーションプログラムの提供

##### スタートアップの成長支援

- 事業化補助
- メンタリング/マッチングの実施

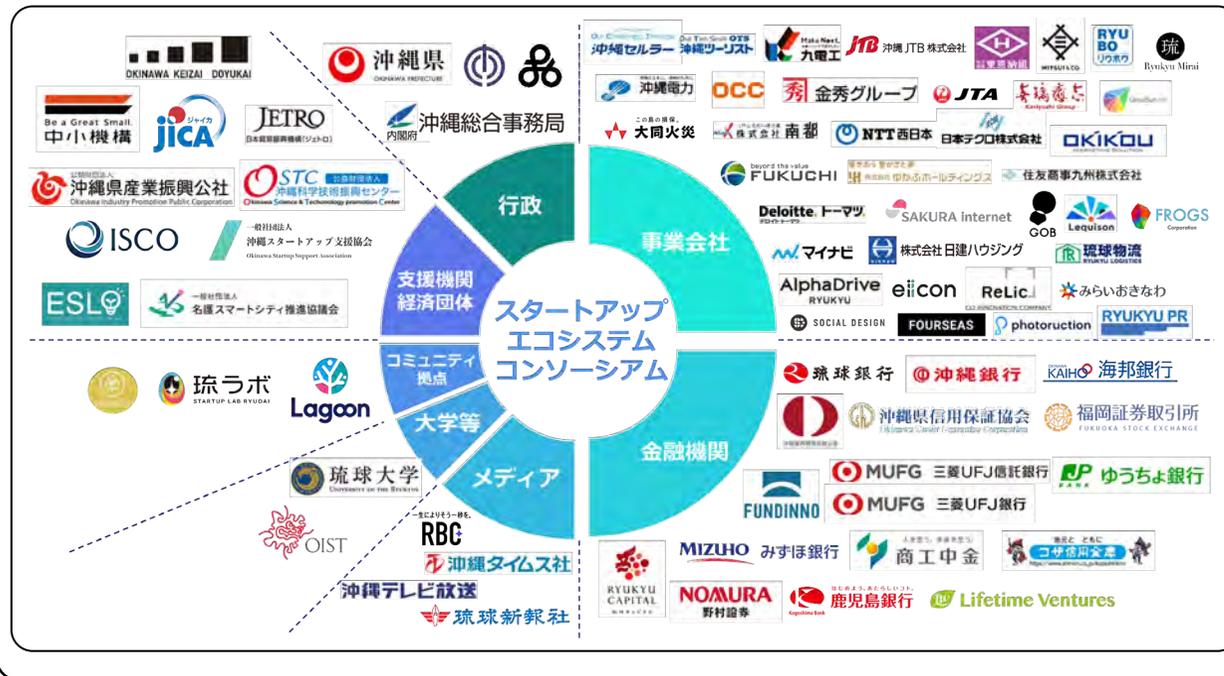
##### コミュニティの形成促進等

- コンソーシアムの活動拠点
- 県内外コミュニティ間の連携

# Ⅲ. 中心となるコンソーシアムの取組

## 1. コンソーシアムの構成（現在の状態と5年後目指す姿を記載）

### おきなわスタートアップ・エコシステム・コンソーシアム加盟組織（2025年2月末）



### ■ 加盟組織数

75団体（2025年2月末）

### ■ 加盟組織の構成種別の割合

	社数	割合		社数	割合
事業会社	38	50.7%	大学等	2	2.7%
金融機関	17	22.7%	支援機関	10	13.3%
メディア	4	5.3%	行政機関	4	5.3%

### ■ 大学における研究者等の状況

	人口総数	技術者・研究者数の総数	割合
沖縄県	100万7千人	10,540人	1.0%
那覇市	31万8千人	3,980人	1.3%
沖縄市	14万3千人	1,240人	0.9%

※沖縄県の数値は、那覇市と沖縄市を除いた数値

### コンソーシアムの目指す姿

グローバルのエコシステムと連携し、相互活性化を促進する基盤

沖縄におけるスタートアップの創出を促進し成長を加速させる基盤

スタートアップとのオープンイノベーションを通じた沖縄の既存事業者の高度化を促進する基盤

### 取組の方向性

海外からのスタートアップ誘致や外国人起業家が創業・活動しやすい環境の整備、スタートアップの海外展開について検討する部会の設置

琉球大学やOISTを中心として、学生向けのアントレプレナーシップ・マインド醸成やポストドク・研究者向けの起業家の創出に向けたアントレプレナーシップ醸成の強化

注力する産業領域ごとに、実証実験のサポートを拡充するとともに、沖縄におけるスタートアップのインパクトレポートを広報

# Ⅲ. 中心となるコンソーシアムの取組

## 2. 各主体が担う役割



### -コンソーシアムの活動-

人的資本部会	経済資本部会	促進環境資本部会
<p><b>起業家人材育成と専門職の確保に向けた環境づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 起業人材を安定的に輩出する仕組づくり</li> <li>● 研究者、経営人材、エンジニアの育成</li> <li>● スタートアップへ参画する人材のマッチング機能</li> <li>● スタートアップ支援ノウハウの向上</li> </ul> <div style="margin-top: 10px;">  <p><b>■ 部会の活動</b> スタートアップ支援に関する勉強会や相互理解を深めるワークショップ、ネットワーキングなどを開催。</p> </div>	<p><b>リスクマネーの環流やオープンイノベーションの促進に向けた環境づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リスクマネー供給の多様化・拡充</li> <li>● 事業会社とスタートアップとのオープンイノベーション促進</li> <li>● 新技術の実証試験や社会実装等の受け入れ体制(スタートアップと事業会社の連携)</li> <li>● 加盟組織によるスタートアップ支援</li> </ul> <div style="margin-top: 10px;">  <p><b>■ 年次集会</b> 年に1回、コンソーシアム加盟組織が集まり、ナレッジの共有を図るカンファレンスを開催。</p> </div>	<p><b>行政や支援機関の連携の促進に向けた環境づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 支援情報ワンストップ化・スタートアップの情報共有</li> <li>● 規制改革(国家戦略特区、グレーゾーン解消制度等)の活用</li> <li>● 産学官金連携による支援</li> <li>● 新技術の実証試験や社会実装等の受け入れ体制(実証フィールドの提供)</li> </ul> <div style="margin-top: 10px;">  <p><b>■ 琉球STARTUP RUNWAY</b> コンソーシアムの活動から金融機関が主体となった新たな取り組みが生まれている。</p> </div>

# IV. 産業の特性

## 1. 注力する産業領域 & 2. 当該産業の可能性 (1/2)

### 観光Tourism



#### 方針 次世代観光体験の創造

##### <具体領域1：スマート観光>

- シームレスなモビリティサービスの提供やオンデマンド交通の導入、AIやIoTによる観光客の動線最適化・混雑緩和

##### <具体領域2：エコツーリズム/サステナブルツーリズム>

- 自然環境を保全しながら、地域文化や自然体験を観光資源化
- オーバーツーリズムの可視化・緩和。

クラスター・PF 沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄リゾートワーケーション推進協議会

ポイント

<スマート観光> 【産】CBcloud(手ぶら観光)、Vpon JAPAN/セーファー(人流データ解析)、KAFLIX CLOUD(レンタカー予約)、Payke(訪日外国人向けプラットフォーム)、Blue Mobility(ヘリコプタータクシー)、ゴールドバリュークリエイション(セルフチェックインシステム)【学】沖縄工業高等専門学校(観光・地域共生デザインコース開設)

<エコツーリズム/サステナブルツーリズム> 【産】マナティ(ビーチクリーン)、Endemic Garden H(ネイチャーガイド)【学】OISTマリン・サイエンス・ステーション(環境DNA)、シンク・ネイチャー(琉球大学発/生物多様性可視化・分析)

ポテンシャル  
(現状)

観光収入：8,507億円

人泊数：2,595万人泊

#### 今後の成長可能性

##### <国内外の動向を踏まえた成長可能性>

- 車両依存度の高い地域における公共交通対策(人員、環境等)
- オーバーツーリズムの未然防止・抑制への取組

##### <将来像>

- 技術活用による観光体験の向上(滞在日数・消費額の増加)
- 技術活用による人的リソースの最適化(人手不足解消、業務効率化)
- 持続可能な観光地の形成(環境負荷の低減と自然環境の保全)

### ヘルスケアHealthcare



#### 方針 ウェルネスとライフサイエンス

##### <具体領域1：生物資源を活用したバイオ製品開発>

- 沖縄の豊富な生物資源を活用した研究開発や事業化の促進

##### <具体領域2：長寿文化とウェルネス>

- 沖縄の健康的な生活をサポートするソリューションの提供

##### <具体領域3：スポーツ>

- 観戦体験の向上、競技力の向上に向けたテクノロジーの導入

クラスター・PF バイオコミュニティ、沖縄スポーツ関連産業協会

ポイント

<生物資源を活用したバイオ製品開発> 【産】オーピーバイオファクトリー(海洋生物・資源ライブラリー)、ユーグレナ/AlgaleX/SoPors/セルメディカ(藻類からの機能性食品)、沖縄テレビ開発(在来山芋からの機能性素材)

<長寿文化とウェルネス> 【産】沖縄セルラー電話(健康サポートアプリJOTOホームドクター)、issin(スマートバスマット)、【学】HerLifeLab(OIST発/フェムテック)、Sage-Sentinel Smart Solutions(OIST発/転倒防止)

<スポーツ> 【学】琉球大学(AIによるラート競技の跳び乗り動作分析)、

【産】ヤマップ(登山保険)、琉球アスティーダスポーツクラブ(上場)

ポテンシャル  
(現状)

バイオ関連産業経済波及効果：187億円

プロ野球春季キャンプの経済波及効果：178億円

#### 今後の成長可能性

##### <国内外の動向を踏まえた成長可能性>

- 世界的な高齢化社会における健康の維持・増進の需要
- スポーツビジネスの高度化・多様化によるビジネス機会の拡大

##### <将来像>

- 世界をリードする生物資源商品ブランドの創出
- 健康長寿文化を有する地域として先行的なテストベッド環境
- スポーツで世界と繋がる国際的なスポーツツーリズム拠点

# IV. 産業の特性

## 1. 注力する産業領域 & 2. 当該産業の可能性 (2/2)

### エネルギーEnergy



方針 持続可能なエネルギー技術革新

#### <具体領域1：島しょ型再生可能エネルギー>

- 波力、潮流、太陽光エネルギーといった自然資源とスマートグリッドなどの技術の活用と普及
- カーボンニュートラル達成のためのクリーンテック開発

#### <具体領域2：ブルーカーボン>

- ブルーカーボン生態系の保全・再生技術の確立

クラスター・PF ハワイ・沖縄クリーンエネルギーに関する協力協定

4-1-1

<島しょ型再生可能エネルギー> 【産】ゼネシス/商船三井(海洋温度差発電)、ネクステムズ(島しょ型EMS)、Sustech(脱炭素化支援)【学】OIST(波力発電)【官】宮古島市/与那原町(脱炭素先行地域)

<ブルーカーボン> 【産】TOPPANデジタル(モズク養殖でのブルーカーボンクレジット認証)、リテックフロー(琉球大学発/二酸化炭素の海藻への固定化)、HPC沖縄(藻場再生)【学】琉球大学(海藻養殖漁場におけるブルーカーボンの高精度定量化と固定能評価)

ポテンシャル  
(現状)

再生可能エネルギー電源による供給量：1,031GWh

再生可能エネルギー電源比率：12.0%

#### 今後の成長可能性

##### <国内外の動向を踏まえた成長可能性>

- 再生可能エネルギーの需要向上、先進的なエネルギー技術開発への期待
- ゼロカーボン推進と気候変動に対する対策の重要性

##### <将来像>

- 低炭素で災害に強い島しょ型エネルギー社会の実現
- 先進的なエネルギー技術の社会実装(水素・アンモニアやOTECをはじめとする海洋再生可能エネルギー等)
- 県全体でのカーボンニュートラル達成

### サーキュラーエコノミーCircular Economy



方針 資源循環型経済の実現

#### <具体領域1：循環型農林水産業>

- 気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための農業・畜産業・水産業の技術開発

#### <具体領域2：島しょ型資源循環>

- 島しょ地域に適した資源循環社会の構築にむけ、食品やマテリアルなどの再利用可能な廃棄物の再資源化技術の開発・導入

クラスター・PF シェアリングエコノミー協会沖縄支部、OKINAWA SDGs PROJECT

4-1-2

<循環型農林水産業> 【産】ジーオー・ファーム(カキの陸上養殖)、【官】久米島町(クルマエビの陸上養殖)、【学】琉球大学(農水一体型サステナブル陸上養殖)、Kwahuu Ocean(OIST発/イカの陸上養殖)

<島しょ型資源循環> 【産】EF Polymer (OIST発/作物残渣の再利用)、Waqua(小型の淡水化装置)、WALLTEC(農業用ビニールアップサイクル)、Curelabo(サトウキビの繊維の再利用)、【学】Watasumi(OIST発/自立型排水処理装置)、BioAlchemy(OIST発/昆虫等を利用した有機残渣処理)

ポテンシャル  
(現状)

産業廃棄物再生利用率：48.2%

陸上養殖届け出件数：168件

#### 今後の成長可能性

##### <国内外の動向を踏まえた成長可能性>

- レジリエンス及び安全保障を踏まえた食料自給率の向上の必要性
- 低負荷・循環システムの技術開発への期待

##### <将来像>

- 県内資源循環システムの構築と拠点施設の設定
- 県内での廃棄物/廃プラのゼロ実現、水資源循環と安定供給
- 気候変動対策に関する先進地域としての世界的プレゼンス向上

# V. コンソーシアム内での取組内容

## コンソーシアム内での取組の評価

### <進捗している点>

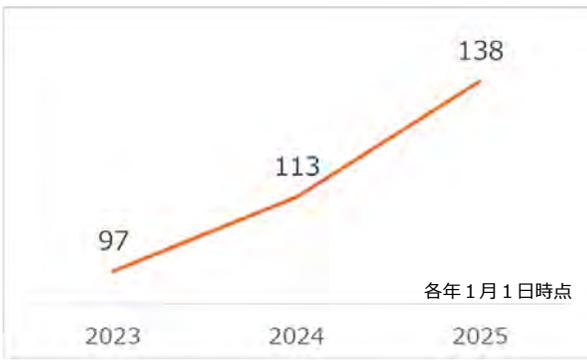
- ✓ 大学発を含むスタートアップは創出されつつある。
- ✓ 資金調達を行うスタートアップや調達額は増加している。
- ✓ コンソーシアムを中心に、県内支援機関の間の繋がりは強固になりつつある。

### <取組を強化していく必要がある点>

- ✓ 行政課題解決プロジェクトやオープンイノベーションの取組ははじまったばかり。
- ✓ グローバルに活躍するスタートアップの創出はできていない。
- ✓ 国内や海外のスタートアップ・エコシステムとの繋がりは不十分。

### これまでの主な成果

#### スタートアップ数の推移



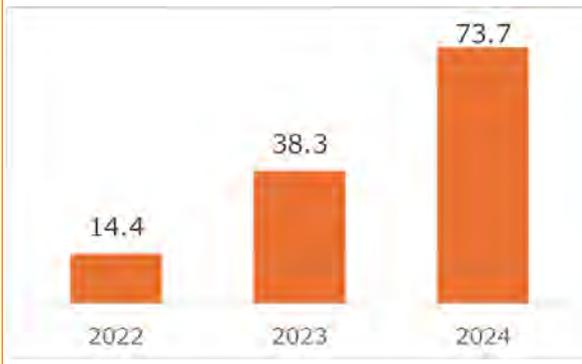
#### 評価額100億円以上のスタートアップ誘致



CBcloud株式会社  
『ITの力で物流業界の  
課題解決と価値向上を実現』



#### 資金調達額の推移



### 2023年度の実績

アントレプレナーシップ 養成講座参加者数	607人	県内企業等とスタートアップとの オープンイノベーションに向けた取組数	1件
アクセラレータープログラム 参加者数	98人	県外スタートアップ・コミュニティとの 連携によるマッチング件数	1件
ビジネスコンテスト 参加スタートアップ数	198社	海外ファンドからの資金調達数	0社
PoC・実証実験の サポート件数	18件	スタートアップ・起業家の 県内誘致数	2社

# V. コンソーシアム内での取組内容

## アントレプレナーシップ教育

### 1. これまでの主な取組



**FROGS**  
Corporation

琉球frogsは世界と沖縄をつなぐ若手イノベーター人材を  
発掘・育成する半年間のハイブリッドイノベーター型人材育  
成プログラム。

#### 沖縄工業高等専門学校アントレプレナーシップ基礎

全ての1年生に対し、アントレプレナーシップ  
の導入教育を実施し、社会の変化に立ち向  
かう姿勢・考え方を醸成。



週末の三日間を活用してア  
イデアをカタチにする**スタート  
アップ体験イベント**。  
最終日までにユーザーエクス  
ペリエンスに沿った、ビジネス  
モデルを一気に作り上げる。

#### 琉大ベンチャー起業講座

起業家に必要なスキルや考  
え方、および実務的な知  
識・ノウハウを身に付けていく  
ことを目的として、起業入門  
等の講義を実施。



#### OIST SCORE!

県内の高校生が、科学技  
術研究と起業アイデアを組  
み合わせ、その成果と企画  
案を競うコンテストを実施。



#### ミライアカデミー

琉球frogsのカリキュラムをもとにした、小中学校の児童生  
徒を対象とした非認知能力を育む学びの場。半年間、社  
会課題の解決に取り組み、未来のリーダーやイノベーターの  
育成を目指す。

### 2. スタートアップ・エコシステム形成に向けた今後の取組

スタートアップに関わる人材の裾野を広げるため、児童や生徒、学生、社会人といったスタートアップ予備軍に対して、広くアントレプレナーシップを学ぶ機会を提供する。

アントレプレナーシップ養成講座  
参加者数(累計)  
800人 (2027年度末)  
1,000人 (2029年度末)

#### アントレプレナーシップ教育の推進

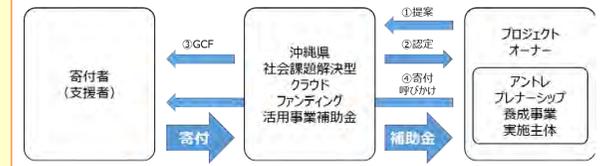
- 児童・生徒・学生に対してアントレプレナーシップを醸成するプログラムを提供するを実施する教育機関等に対する支援に取り組む。
- 第二創業や新事業開発、スタートアップとのオープンイノベーションをけん引するイントレプレナーの養成に取り組む。
- 県民に対しスタートアップへの理解を深める情報発信やPRイベントを開催する。

#### アントレプレナーシップ教育の推進

- アントレプレナーシップ教育  
琉球大学は、アントレプレナーシップ講義の開講やアントレプレナーシップ教育が可能な教員の育成に取り組んでいく。



- ガバメントクラウドファンディングの活用  
アントレプレナーシップ教育を行う教育機関・団体に対し、ガバメントクラウドファンディングを活用した支援を実施。



# V. コンソーシアム内での取組内容

## スタートアップの創出

### 1. これまでの主な取組

#### Lagoon KOZA

起業から経営に関する様々な相談ができるインキュベーション施設。創業者には「認定特定創業支援等事業」の一環として、登記免許税減免等の支援が受けられる。  
実績（年平均）：創業相談 300件  
イベント開催140件、創業件数60名



#### おきなわ創業ワンストップセンター

国家戦略特区「開業ワンストップセンターの設置」を活用し、法人設立等に関連する相談や手続支援などのスタートアップ創業相談窓口



#### STARTUP BOOT CAMP ゼロからの起業

これから創業する「起業準備中」の方と、起業直後の「かけだし起業家」のための、創業期特化型の超実践的起業支援講座



#### スタートアップ起業支援金

目的	起業に必要な経費の一部の支給(上限200万円/補助率2分の1) 経営面等に係る各種支援を行う。		
対象	デジタル技術を活用し、以下の地域課題の解決を目指した起業をする方 (地域の課題)		
	地域活性化関連	環境・エネルギー関連	観光、まちづくりの推進
	健康、医療関連	生活利便性向上関連	社会福祉関連
	子育て支援	Society5.0関連業種の産業分野での地域課題解決	

### 2. スタートアップ・エコシステム形成に向けた今後の取組

県内の起業家やスタートアップを育てる仕組みとあわせて、県外から高度なテクノロジーや独創的なビジネスを有するスタートアップ等を積極的に誘致する。

スタートアップ・起業家の  
県内誘致数(累計)  
17社 (2027年度末)  
30社 (2029年度末)

#### スタートアップの創出促進

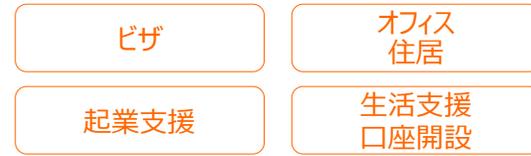
- 経済産業省のスタートアップビザを活用し、海外からのスタートアップ誘致や外国人起業家が創業・活動しやすい環境の整備に取り組みます。
- 起業のためのスキル習得やビジネスモデルのブラッシュアップに向け、実践的な内容の講座やメンタリングを実施する。

#### 海外スタートアップの県内進出支援（スタートアップビザの導入）

経済産業省「スタートアップビザ」を活用し、多言語対応が可能なワンストップ相談体制を整備し、海外スタートアップの沖縄進出支援を総合的に行う。

- 外国人起業家等への起業準備支援
- 生活基盤構築支援
- 創業した起業家へのフォローアップ

#### ワンストップ相談体制



# V. コンソーシアム内での取組内容

## スタートアップの成長支援

### 1. これまでの主な取組

<p><b>J-Startup OKINAWA</b></p>  <p>飛躍的な成長が期待できる沖縄発スタートアップを選定し、官民連携で集中支援するプログラム。</p>	<p><b>OIST Innovation Accelerator</b></p>  <p>OISTの人材や設備、資源と革新的な技術をもつ起業家を組み合わせ、スタートアップを創出するグローバルプログラム。</p>	<p><b>BORベンチャーファンド</b></p>  <p>出資を通じて県内スタートアップ・エコシステムの構築及び地域経済の活性化に貢献することを目的に設立。</p>	<p><b>おきなわイノベーション創出ファンド</b></p>  <p>スタートアップ等を含む中小企業への出資や育成支援により地域の活性化を目的とした公的ファンド。</p>
<p><b>J-GoodTech</b></p>  <p>全国のスタートアップと大手企業、海外企業、VC、CVCなどの投資家をつなぐマッチングプラットフォーム。</p>	<p><b>Boostup OKINAWA</b></p>  <p>県内で実証可能なプロダクトを有するSUに対して、メンターによるメンタリングを中心とした成長支援を提供するプログラム。</p>	<p><b>OIST-Lifetime Ventures Fund</b></p>  <p>OISTとLTVが連携して設立したディーベック領域に特化したファンド。</p>	<p><b>琉球STARTUP RUNWAY</b></p>  <p>資金調達（エクイティ、デット）の一括相談ができる県内の金融機関が中心となるプラットフォーム。</p>
<p><b>新事業創出促進出資</b></p>  <p>新たな事業の創出を促進することを目的に、沖縄振興特別措置法において定められている特別業務（出資業務）。</p>	<p><b>初期プロダクト（MVP）の開発、仮説検証、事業化に要する経費の補助</b></p> <p>研究開発型のすたを中心に、スタートアップのプロダクト開発を支援。</p>	<p><b>カーリーインパクト&amp;イノベーションファンド</b></p>  <p>経済的リターンと、社会課題の解決や社会価値の向上・創造の両立を目指す沖縄発のインパクト投資ファンド。</p>	<p><b>OKINAWA Partner VC</b></p> <p>沖縄県内のスタートアップに投資意欲のあるVCをパートナーVCとして選定し、SUとの定期的なミートアップを実施。</p>

### 2. スタートアップ・エコシステム形成に向けた今後の取組

スタートアップの様々な課題を解決することで成長を加速させるため、プロダクト開発支援や資金調達環境の多様化、県外・海外展開支援に取り組む。

海外ファンドからの  
資金調達社数(累計)  
3社(2027年度末)  
5社(2029年度末)

#### グローバル展開の後押し

- コンソーシアム加盟組織の国際的なネットワークを生かし、海外市場開拓に向けた営業活動を支援する。
- ベンチャーキャピタル等による資金供給を促進するため、沖縄県内のスタートアップに投資しやすい環境を整備する。

#### 県内スタートアップの海外展開支援

海外展開支援プログラムの提供  
急成長を志すスタートアップのうち海外進出を目指す企業を対象とし、現地パートナー候補又は現地コミュニティとの面談を含む海外渡航プログラムを実施する。

成長加速化支援事業の実施  
ベンチャーキャピタル等から出資を受けるスタートアップに対して、研究開発や生産能力増強等を支援するとともに、経営基盤の強化や財務管理体制の整備を支援する。

# V. コンソーシアム内での取組内容

## スタートアップ・コミュニティ

### 1. これまでの主な取組

民間企業、大学、行政が運営するスタートアップ・コミュニティが各地域で開設され、多様な支援が実施されている。



#### チャレンジ石垣島

石垣市 / カヤックゼロ  
コワーキング、シェアオフィス

#### コザスタートアップ商店街

沖縄市 / 琉球ミライ・フォーシーズ  
コワーキング、シェアオフィス、創業相談

#### howlive

那覇市 / マッシュグラ沖縄タイムス  
コワーキング、シェアオフィス

#### Lagoon NAHA

那覇市 / 沖縄県  
創業相談

#### OIST Innovation

恩納村 / OIST  
シェアオフィス、ウエットラボ

#### nagonova

名護市 / アルファドライブ  
コワーキング、シェアオフィス、創業相談

#### O2Okinawa Office

那覇市 / トゥーザコア沖縄  
シェアオフィス

#### MECAL GARDEN

那覇市 / ブルームーンパートナーズ  
コワーキング、シェアオフィス

#### 健康バイオテクノロジー研究開発センター

うるま市 / 沖縄県  
シェアオフィス、ウエットラボ

#### ライフサイエンス研究センター

うるま市 / 沖縄県  
シェアオフィス、ウエットラボ

#### バイオ産業振興センター

うるま市 / 沖縄県  
シェアオフィス、ウエットラボ

#### STARTUP LAB RYUDAI(琉ラボ)

西原町 / 琉球大学  
コワーキング、創業相談

### 2. スタートアップ・エコシステム形成に向けた今後の取組

国内や海外のスタートアップ・コミュニティとの人的・組織的なネットワーク構築に取り組み、スタートアップの県外展開を後押しするとともに、沖縄を拠点にビジネスを希望する起業家・スタートアップの誘致を図る。

#### スタートアップ・コミュニティのグローバル化

- 国内外のコミュニティを繋ぐイベントを開催するなど、スタートアップ・コミュニティのグローバル化を進めます。

#### スタートアップ・コミュニティの強化

OISTに新しいインキュベーション施設が開所予定



完成イメージ図

# V. コンソーシアム内での取組内容

## スタートアップ・イベント

### 1. これまでの主な取組

#### Okinawa startup program

2017年度からスタートしたスタートアップ創出・育成プログラム。琉球銀行、沖縄タイムス社、沖縄セルラー電話、沖縄電力、日本トランスオーシャン航空、大同火災海上保険、沖縄JTB、琉球放送の8社が共同開催。



#### LEAP DAY

沖縄の民間企業がスタートした人材育成プログラムである琉球frogsの最終成果報告会の場。年齢や立場を超えて、人材育成をテーマに沖縄から日本の未来を考えるイベント。



#### ミチシルベ

沖縄の社会課題をはじめ、多種多様なテーマを扱う約20のトークセッション、平和劇や組踊、マルシェなどエンタメ要素も盛り込んだ複合型イベント。より豊かな沖縄を未来に引き継いでいくことを目指す。



#### X-Tech Innovation

日本を横断する地域共創型の、デジタルを活用した新サービスを募集するビジネスコンテスト。北海道銀行、岩手銀行、七十七銀行、ふくおかフィナンシャルグループ、沖縄銀行が共同開催。



#### KOZA ROCKS

2022年7月、コザスタートアップ商店街のオープンと共に始まった都市型成長産業カンファレンス。万国津梁（世界の架け橋）をテーマに、日本とアジアを繋ぐグローバルなイベントとなっている。



#### Asia Newtravel Bootcamp

新しい観光とライフスタイルに特化したスタートアップ・事業会社・行政間でのオープンイノベーションを促進していくためのグローバルカンファレンス。



### 2. スタートアップ・エコシステム形成に向けた今後の取組

国内や海外のスタートアップ・イベントの主催団体やアクセレーターと連携し、スタートアップの相互進出やスタートアップ支援関係者との交流を促進する。

#### 海外スタートアップ・コミュニティとの連携

- 国内や海外のスタートアップ・イベントとの相互出展等により、ネットワークを構築。
- 沖縄発スタートアップのグローバルピッチコンテストや沖縄のエコシステムの現状を国内や海外に発信するイベントを開催。

#### 海外スタートアップ・コミュニティと接続したイベントの開催

おきなわスタートアップ・エコシステムの発信

- おきなわスタートアップ・エコシステムの支援施策や沖縄発スタートアップのPRイベントを県外で開催。
- 多言語の情報発信を実施。

グローバルカンファレンスの相互連携

- スタートアップ・エコシステム拠点都市間や県内イベント、海外のスタートアップ・イベントと相互に連携し、県内グローバルカンファレンスの規模拡大を図る。

# V. コンソーシアム内での取組内容

## 公共調達／オープンイノベーション

### 1. これまでの主な取組

地域課題解決型  
スタートアップ支援事業



地域課題を抱える自治体とデジタル技術等を有するスタートアップをマッチングし実証実験を行う経費を支援。課題整理や実証協議等の実証実験を行うために必要な支援を行政とスタートアップ双方に実施。

なはし社会地域課題解決型  
起業支援事業



那覇市の抱える社会課題、地域課題の解決を目的とした起業及び新規事業を行うものに対して、費用の一部助成及び専門家等の派遣等を行い、スタートアップ等の創出及び成長の後押しを実施。

テストベッド・アイランド形成推進事業



実証実験に関する企業からの相談対応を行うワンストップ窓口を設置し、国・県・市町村等が連携した支援を実施。革新的なデジタル技術・サービスを持つ企業による県内での実証実験に対する経費の一部を支援。

オープンイノベーション創出支援事業



オープンイノベーションによる革新的なビジネス・サービスの創出を目指す県内企業等と最先端の技術・サービスを持つ県内外の企業等とのマッチングや協働・共創体制の構築及び事業化に向けた取組を支援。

### 2. スタートアップ・エコシステム形成に向けた今後の取組

地域の様々な課題を抱える県内自治体とソリューションを提供するスタートアップが連携し、課題解決に向けた実証事業をサポートする。

スタートアップに対するPoC・実証実験のサポート件数(累計)  
45件 (2027年度末)  
60件 (2029年度末)

#### 公共調達／オープンイノベーションの促進

- 様々な課題を抱える自治体とスタートアップが連携し、課題解決に向けた新たな取組を支援する。
- 「沖縄実証実験支援プラットフォーム」と連携し、社会課題やオープンイノベーションに資する実証事業をサポートする。
- 県内外の事業会社とスタートアップとのビジネス連携・オープンイノベーションを活性化する。

#### PoC／実証実験サポートの取り組み拡充

- 自治体が抱える課題（行政DX、スマートシティ、防災など）を公開し、ソリューションを提供するスタートアップとのマッチングを拡大。
- PoCや実証実験への協力体制の強化に取組むとともに、実証実験を行う際のサポートの充実に取り組む。
- 事業会社の新規事業担当者等のコミュニティを形成し、定期的にナレッジ共有のイベントを開催する。

**Beyond Limits. Unlock Our Potential.  
To the Next Stage.**

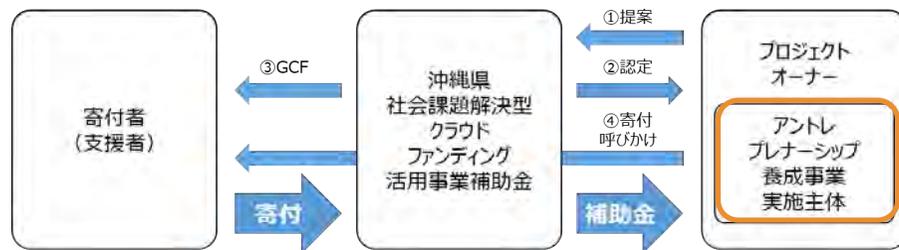
**第2期スタートアップ・エコシステム拠点形成計画  
(新規拠点都市用)**

**おきなわスタートアップ・エコシステム・コンソーシアム**



## ガバメントクラウドファンディングの活用によるアントレプレナーシップへの支援

自ら新たな価値を想像し、社会にイノベーションを起こすアントレプレナーシップを有する人材の育成や社会課題解決に取り組むソーシャル・スタートアップの経営基盤強化に係る取組を支援するため、令和7年度よりガバメントクラウドファンディングを実施する。



## おきなわスタートアップ・エコシステム発展戦略 (令和5年11月)

### 1. 人材育成・確保

#### (1) アントレプレナーシップ教育の推進

スタートアップにかかわる人材のすそ野を広げるため、学生、社会人といったスタートアップ予備軍に対して、広くアントレプレナーシップを学ぶ機会を提供します。

アントレプレナーシップ養成講座参加者数  
(2023年度～2024年度の累計)

**1,011**人 ※速報値

目標値(2027年度)

**1,000**人

達成率

**101.1%**

## 想定される活用事業



琉球frogsは世界と沖縄をつなぐ若手イノベーター人材を発掘・育成する半年間のハイブリッドイノベーター型人材育成プログラム。

2008年より沖縄在住の学生（中学生から大学生まで）を対象としたプログラムを実施し、現在延べ1,138人の学生がこのプログラムに参加。

学生の参加費は無料で、経済格差が教育格差に結びつかない社会資源を提供し、修了生は県内外の様々な分野で活躍している。

沖縄で生まれたこのプログラムは2019年より本格的に全国へと展開している。



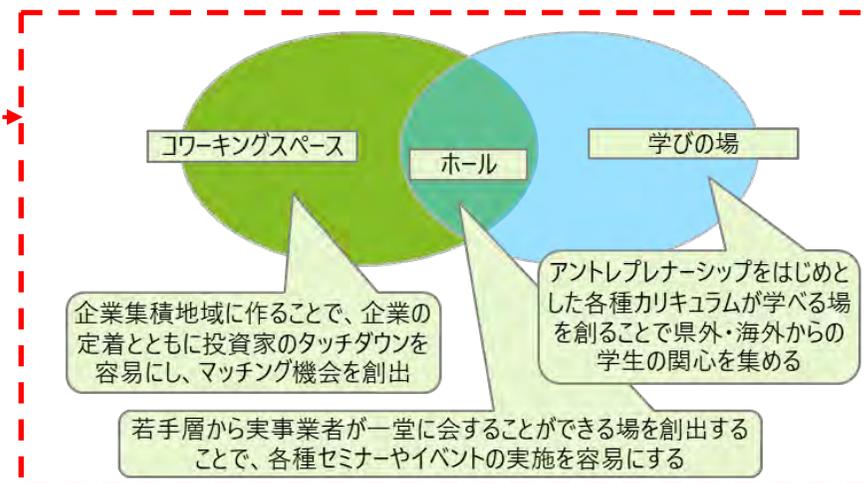
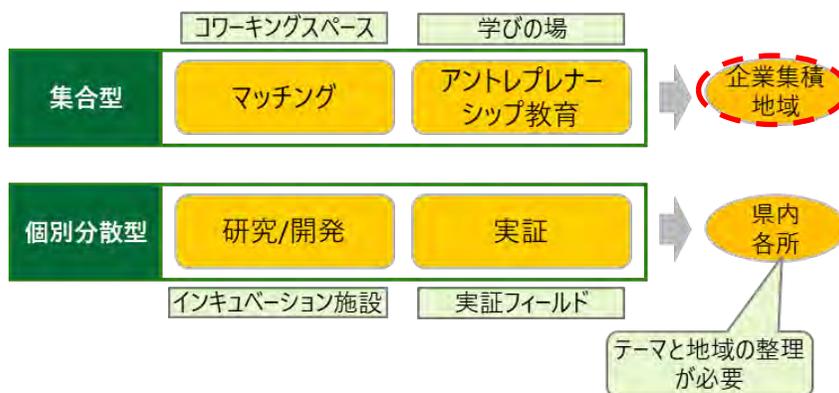
## アントレプレナーシップ教育の実践と拠点機能の設置

### アントレプレナーシップ発展に向けた戦略

- 受講生間のコミュニティ（アルムナイ）の創出やステップアップのための知識の獲得
- 受講生が活躍する場所の提供
- 伴走支援、海外展開支援等の施策の実施

スタートアップ拠点都市として継続的に事業創出・事業拡大ができる環境を創出するためには、支援メニューとともに、将来的には学びを実践につなげる拠点づくりが必要

### 「共創」に向けた環境整備



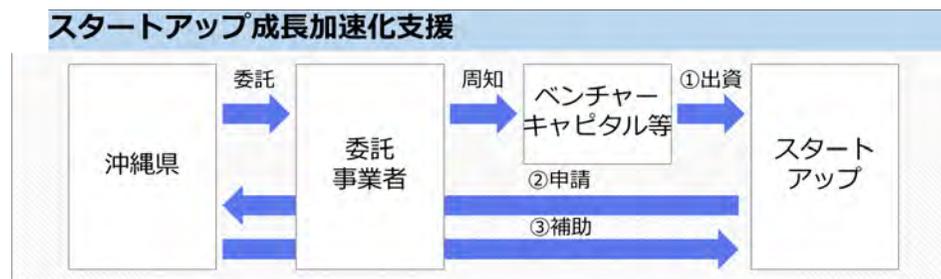
## 沖縄県における成長加速化支援

### スタートアップ成長加速化支援

ベンチャーキャピタル等から出資を受けるスタートアップに対して、研究開発や生産能力増強等を支援するとともに、経営基盤の強化や財務管理体制の整備を支援する。

- 研究開発枠 5,000万円(補助率10分の8以内)  
※VC等から補助対象経費の10分の2以上の出資が必要
- 一般枠 5,000万円(補助率3分の2以内)  
※VC等から補助対象経費の3分の1以上の出資が必要

県外スタートアップの誘致施策として認知拡大を図る



## 今後の取組

### OISTインキュベーション施設の新設



- 今年5月に開所予定のOISTインキュベーションには大企業からの問い合わせも複数あり、国内外の企業誘致につながることを期待されている。
- その他、県外大手企業が、県内企業と連携し県内にインキュベーション拠点の設置を計画しており、コンソーシアムとしても積極的に連携を図っていく。

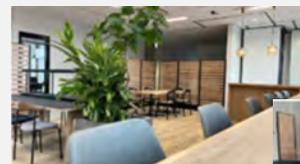
## スタートアップ・コミュニティ（琉ラボ）



STARTUP LAB RYUDAI(琉ラボ)

西原町／琉球大学  
コワーキング、創業相談

- 若者が活躍できるスタートアップ創出/成長の促進体制を構築するために、ヒト・コト・情報がリアルに交差するオープンスペースとして、琉球大学内に「STARTUP LAB RYUDAI(琉ラボ)」を2023年に開設。
- 「研究課題の社会実装化」「起業家人材の創出・育成」「沖縄スタートアップエコシステムとの連携」「世界に注目されるオープンイノベーションへの挑戦」の4つのミッションを掲げ、活動している。



## 琉ラボ × OIST

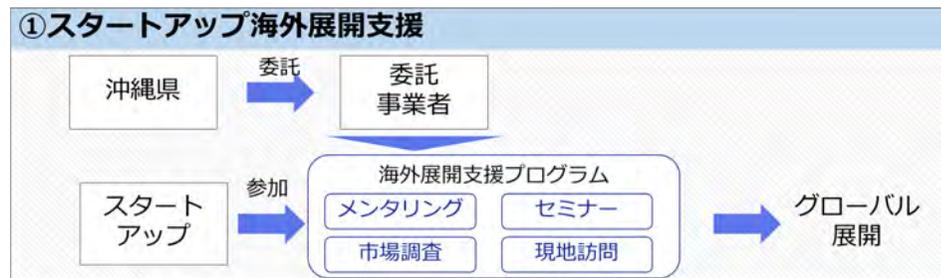
2024年10月、琉ラボとOISTが共同で「Okinawa University-Startup Showcase」を東京 虎ノ門にあるCIC東京で開催  
VCや事業会社を中心に100名以上（オンライン・オフライン）が参加  
ディープテック領域のスタートアップに対する注目度も高く、沖縄県認定VCの4社（みらい創造機構、MTG Ventures、DeepCore、DGインキュベーション）による個別メンタリングを実施するなど、大学発スタートアップの創出・支援に向けて連携して取り組んでいる。



## 海外展開支援（沖縄型スタートアップ拠点化推進事業）

### ①スタートアップ海外展開支援

急成長を志すスタートアップのうち海外進出を目指す企業を対象とし、現地パートナー候補又は現地コミュニティとの面談を含む海外渡航プログラムを実施する。  
対象国：北米、アジア（韓国、シンガポール、ベトナム、インドネシア）



### ②外国人起業家等の域内進出支援

外国人起業家や海外スタートアップの県内進出に係るワンストップ相談体制を整備し、ビザ認定までの問合せ、ビジネスプランの磨上げ支援、起業準備活動計画の日本語書類作成支援等を実施する。



## グローバルイベントの実施

### KOZA ROCKS

2022年7月、コザスタートアップ商店街のオープンと共に始まった都市型成長産業カンファレンス。  
万国津梁（世界の架け橋）をテーマに、日本とアジアを繋ぐグローバルなイベント

2025年7月11日～12日

※2024年度実績：  
国内外より延べ1,000人が参加



### Asia Newtravel Bootcamp [台湾との交流アクセラレーションプログラムから発展 2024年度よりグローバルイベントとして実施]

新しい観光とライフスタイルに特化したスタートアップ・事業会社・行政間でのオープンイノベーションを促進していくためのグローバルカンファレンス

2026年2月5日

※2024年度実績：  
8つの国・地域より206人が参加  
商談・マッチングも61件実施

